



清水の

豪援隊かわら版号外

清水ヒデキ

豪援隊隊長・

弁護士・移民コンサルタント
(MARN: 9900985)

「オーストラリアから日本を援けよう」と豪援隊発足。16歳に単身オーストラリアに留学。その後ボンド大学卒業後、QLD州弁護士資格取得。長年に渡り、日本人ならびに日系企業、世界各国のクライアントのコンサルタント業務に従事。

<ジョーク 号外版>

選挙運動中

ある日、選挙運動のために政治家を大勢乗せたバスが田舎道を走っていた。

バスの運転手は眺めに気を取られ運転を誤って、バスは溝に転落した。

近くに住んでいる農夫がひどい衝突音を聞いて駆け付け、残骸を見つけた。

政治家を見つけると、すっかり埋めてしまった。翌日、警官が農家にやってきて、質問した。「それで、政治家全員を埋めたわけですか?」警官が尋ねた。

「みんな死んでいたんですか?」

農夫は答えた。

「まだ生きてると言ってるのもいたけど、政治家ってのは、ひどい所つきだからな。」

日本の国債

日本の国債が暴落したため、日本国はデフォルト宣言をし、アメリカに多額の経済援助を申し込んだ。

「これから日本はどうなるんだろ。」

「日本は星になっちゃったのさ。星条旗のね。」

<号外的な視点>2013年選挙戦総括

その1: 選挙戦結果

今月7日に行われた豪連邦議会の総選挙の結果は、皆様もご存知のとおり自由・国民連立党が地すべりのまではいきませんでした。各地で圧勝しました。日本でも良く耳にするけど成果があまり見えない「財政再建」が今回の選挙の中核をなしていた選挙戦でした。そんな中、最終的な軍配はかつての実績とこれからの期待という点で自由・国民連立党に上がりました。それまでの各地の州議会でも起こっていた国民の労働党離れが、連邦政府のレベルでも起こったといえます。

その2: ラッドの野望

この結果は当初から予期できたこととは言え、ラッド議員の国民的人気にあてこんで、ギラード前首相を党首の座から引き摺り下ろし、ラッド首相のもとで選挙戦を戦おうとした労働党上層部にはまさかの結果となりました。というよりも、おそらくこの結果は彼らも予期していたことで、今回の選挙戦敗退のダメージを何とか最小限にしておこうという意図であったのではないのでしょうか。そして、最終的にはラッド首相に選挙戦敗退の責任を負わせる、正にスケープゴートであったわけです。そして、それに首相の座に未練たっぷりだったラッド首相が乗っかってしまいました。ラッド前首相も自分自身が人寄せパンダであるのにもかかわらず、自分の人気に自惚れて、おそらく自分が党首になれば選挙に勝てると錯覚したのではないのでしょうか。そのため、労働党の「顔を出さない上層部」の連中は、とにかく選挙中もラッド前首相の好きなようにやらせていました。そのため、ラッド首相は今回の選挙戦の前端的な責任を負わなければいけないという結果になったのです。逆に、この選挙で勝てなかったその責任を全面的にラッド議員に押し付けることができ、他の労働党員にはあまり傷をつけずに済んだということが、おそらく労働党上層部の本音でしょう。(政治ってこわいですね。。。)

(右上に続く→)

その3: 新総理アボット

さて、新首相となったアボット首相ですが、この人は「くそ」がつくくらい真面目な人で、政治家にしては珍しいほどに正直者でうそがつけない。人間としてはいい人なのでしょうが、十分にリーダーシップを発揮できるかどうか、多少未知数です。ただ言えることは、新たに組織される内閣のメンバーは年齢も働き盛りでハワード政権の際の大臣経験者も居り、かなりのやり手がそろっているという感があります。日本の政治家を見ると「年寄りばかりだなあ」と思うことがしばしばですが、こちらは新陳代謝がとても活発で、どんどん若い有能な議員が出てきますし、長老たちは自分たちが思うような動きができなくなると、さっさと引退します。そのため、国としての様々な取り組みがスピーディーに行われます。これがオーストラリアの強みであると言えるでしょう。

その4: 国民の期待

アボット政権への期待、多くの国民が期待しているのはまず経済政策です。しかし、選挙運動期間中、あまり具体的な経済政策に関するマニフェストを行いませんでした。少し中途半端な経済政策を引っさげての選挙戦だったのにもかかわらず、国民は過去の実績からアボット政権を選出しました。以前、ハワード政権時の財務大臣であったコストロ氏を起用なんてことになったら、それこそ大騒ぎでしょうね。

その5: 選挙速報

こちらの選挙速報も日本と同様のスタイルでテレビで行われましたが、スタジオに各党を代表する議員が呼ばれていることが多いのですが、負けている党の議員の表情がどんどんこわばっていくのを見るのはかわいそうですね。